

大本山永平寺：七堂伽藍（法堂）

法堂は、毎朝のおつとめ、仏教の講義、その他の重要な儀式に使用されてる。何度も再建され、最近では 1843 年に再建された。永平寺の法堂は江戸時代（1603～1867）から現存する最も大きなお堂の一つであることは注目に値する。

お堂の中心的な仏像は、慈悲の菩薩である聖観世音菩薩像である。正面の祭壇は、悪霊を追い払うと信じられている 4 体の白い獅子（中国の守護獅子）によって守られている。右側の 2 頭の獅子は、口を開けている。左側の 2 頭は口を閉じておる。これらの二対の獅子はサンスクリット語のアルファベットの最初と最後の音 ah と un を表している。これらはすべてのものの始まりと終わりを象徴している。獅子の開いた口と閉じた口は、禅修行の両面を表しており、仏陀の教えを理解するには、言葉での教えと沈黙の行動（坐禅）の両方が必要であると教えている。